



令和6年5月18日(土)施術前1

令和6年5月26日(日)施術前1

令和6年9月7日(土)施術前1

令和6年9月27日(金)施術前1



令和6年5月26日(日)施術前1



令和6年9月7日(土)施術前1

下顎下縁の挙上がよく判ります。

たるみと肝斑がひどく、他院での施術では改善を認めないと訴え、当院受診となった患者さんです。

写真の縦横比率が変わらないように設定した上で、両側頬骨弓部分の外縁間距離が一致するように写真の大きさを調整、両眼列と両眉が一致するように、上記の令和6年9月27日の写真をドラッグして、5月26日の写真に重ね合わせたものが、下の画像です。内眼角の位置が明らかになるように目隠しを工夫し、距離が明確に判るようにしています。

明らかに鼻の位置が挙上し、両口角・口唇及び下顎下縁が挙上しています。驚くべきことに鼻下縁—上口唇上縁(中央は人中)の距離が短縮しています。それは鼻の挙上以上に口唇・口角の挙上の方が著しいことからよく判ると思います。

しかも、斜め白矢印に示しますように9月7日の方が頬のでっぱりが強く認められます。これは、強い縦方向のTightening(引き締め)のために両頬の肉塊がはみ出すようになったためと推察されました。

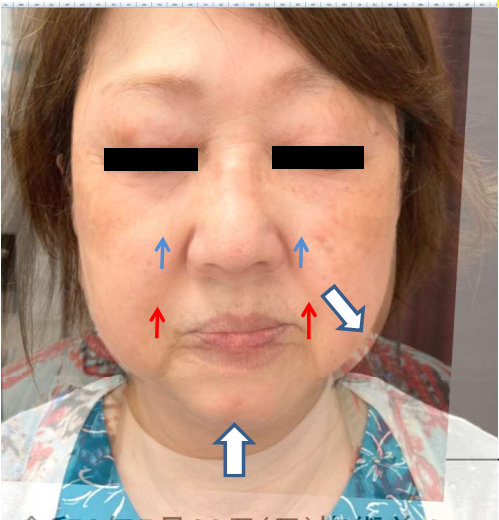
なお、その頬のでっぴりはその後の施術で改善しています。9月27日の写真を参照してください。



5月26日画像と9月7日画像を縦に並べ、上の画像のように鼻頭右外側が一致するように調整したうえで、5月26日画像の鼻頭左外側に垂直線を引くと下の画像になります。

鼻頭の縮小が明らかであることが判ります。

手術不要の鼻頭縮小



令和6年5月26日(日)施術前1



施術の結果生じた口角の左右差

令和6年9月7日(土)施術前1

